

「フィレンツェの豚さん」が語る名将シーザーの先見の明

フィレンツェといえば「花の都」という意味。その名にふさわしく、イタリア・ルネッサンス期には空前の経済的繁栄と芸術の花が咲き乱れた。

イタリアの首都ローマと商業都市ミラノの中間にある。歴史にその名を留めるメデイチ家が権勢と富をほしきままにし、その庇護のもとにレオナルド・ダヴィンチやミケランジェロなどの大芸術家が輩出した。

そのイタリア・ルネッサンスの大いなる遺産ともいえるのが、市が誇るウフィチ美術館で、ここに集められている世界各地からのコレクションは、その質の高さにおいて世界でも屈指のものといわれている。

が、ここで注目したいのが、この美術館に納められている大理石造りの一匹の豚の彫刻である。この豚の彫刻は、西暦紀元前後のヘレニズム文明時代のものといわれ、一六〇〇年代にこのコレクションのものとなった。

そして、この彫刻をコピーしたブロンズ製の豚が、美術館近くの露天市場のなかに飾られていて、フィレンツェではこれを「ポリチェリーノ（豚さん）」とよび、市民のマスクोटになっている。

ミート de meet

ベーコンの美味しい食べ方

ベーコンは料理の味だしに適しています。製造工程でくん煙されてきた風味が、煮込むとスープに溶けだし美味しくなります。煮込む前に熱湯をさっとかけると、余分な脂肪をとり除くことができます。

スライス状のものは、ソテーや焼きものに適しています。中火で脂肪が十分に出きるまで焼くと力リカリと香ばしく仕上がります。

この豚の鼻先に触れると、船乗りは再びフィレンツェに帰れるとか、さわった人が幸運に恵まれるとかいわれ、通行人が次々と鼻先に手を触れていく。

こうした伝説が生まれた背景として、じつは、古代ローマ時代にはイタリアには豚はいなかったのである。が、紀元前五八年から五二年にかけて、かのシーザーがガリア（いまのフランス）を征伐したとき、シーザーはガリア人に初めて豚肉を食べさせられ、すっかりそのうまさにとりつかれてしまった。そこで、ローマに凱旋するにあたって、ガリア

アの豚をイタリアに持ち帰り、以後、イタリアでも豚が飼われるようになった。シーザーはその後もガリアから大量の豚を移入し続け、そのためかなりの財貨がガリアに流出したといわれる。こうして、シーザーはのちになって「シーザーはローマの軍隊でガリアを征服したが、ガリア人は豚でローマに報復した」といわれるようになった。なにしろローマが豚をいくらでも買い込んでくれるので、当時、ガリアの町や村々は豚のにおいで満ちあふれていたという。